# 埋文发生がた



2001年10月31日 第21号



酒田市 泉森窯跡出土鐙瓦

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER 〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301代 FAX 023-672-5586

### 2001年 発掘調査トピックス

今年度は道路改良やほ場整備などにかかわって、 県内19遺跡の発掘調査を行っています。今回はその 中から5遺跡を取り上げ、発見された生活の跡や残 された遺物についてトピックスとして紹介します。

#### 

### 真室川町釜淵C遺跡



縄文時代の水場遺構

# 金融人分の過去人位 お祭の大路書 1?

今年度の調査において、縄文時代中期末から後期前 葉とみられる集落跡では、複式炉を有する竪穴住居跡 と、さまざまな形をした多数の配石や、周りに焼石を 伴う埋設土器など、祭祀に関わると考えられる配石遺 構群が確認されました。

また、晩期の捨て場では土器や石器をはじめとする 大量の遺物が、およそ2mの厚さで堆積しており、そ の下からは水場遺構が見つかりました。

(黒坂雅人・豊野潤子)



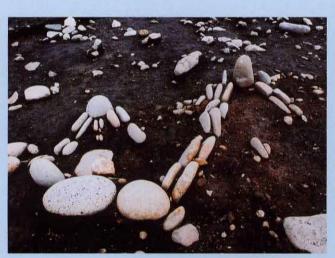
土偶の出土状況



土器捨て場の土層断面 (多数の土器がささっている)



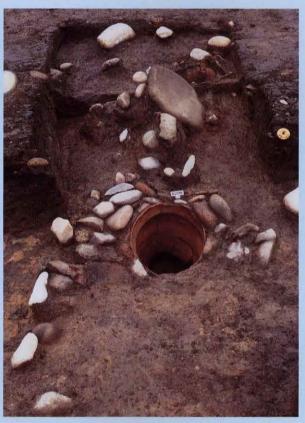
竪穴住居跡群



配石遺構群の一部



環状配石遺構の想定復元



配石を伴った埋設土器





ST21大型竪穴全景

縄文時代前期中葉の大型竪穴が発見されました。全長17m、最大幅が6mで床面中央に一直線に7カ所の炉跡があります。

柱穴は直立し、最大67cmの深さを持つ10対、20本の主柱で構成されています。

大型竪穴は集落内の共同作業や集会所等の機能があったといわれますが、坂ノ上遺跡ではこの竪穴を除くと1~2棟しかなく、拠点的な集落に認められる植物質食料の加工に使われた礫石器も貧弱です。どのような目的で作られたのでしょうか?

(渋谷孝雄)



3号炉跡:厚い焼け土が認められます。



多量の石屑:竪穴から多量の石屑が出土し、 土ごと採取しました。



石屑の山:土を洗って篩にかけ、9,779点 の石屑が回収されました。



方形墳墓群の検出状況



方形の周溝が重なり合う1号周溝墓と2号周溝墓



甕棺墓 (口にはフタを被せている)

米沢市北部の北小屋屋敷遺跡では、平地に6基の方 形状の中型周溝墓群と、小型の甕棺墓や土坑墓群が検 出されました。

周溝墓群はすでに主体部が削平されていましたが、 直径約15~20mの大きさで、幅1m前後の溝跡が方形 に回っています。

方形の周溝墓群の外側には直径1m以下の甕棺墓や 土坑墓がまとまって確認されました。甕棺の中からは 朱、土坑墓からは人骨が見つかりました。

これらのお墓は、出土遺物等から古墳時代中期(約1,600年前)ころと考えられ、大きさやお墓の形態から葬られた人の階級や時期の違いが考えられます。

(植松暁彦)



土坑墓(白いものが骨片)



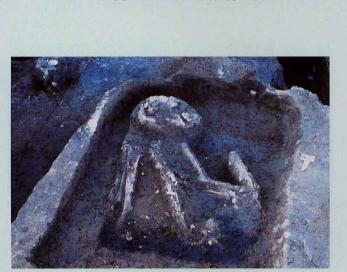
### 山形市渋江遺跡

山形市北部を流れる白川 (馬見ヶ崎川) 右岸の自然 堤防上から、古墳時代の集 落跡と近世墓が検出されま した。古墳時代の遺構では、 5~7mの方形または長方 形の竪穴住居跡が70棟以 上検出されました。総住 居数の3割程度は、何らか の理由で火災にあっている ことがわかりました。また、 土葬と火葬合わせて100基 以上の近世以降のお墓も見 つかっています。中世では、 掘立柱建物跡や区画溝が 検出され、溝跡からは中 国産の青磁などが出土しま した。

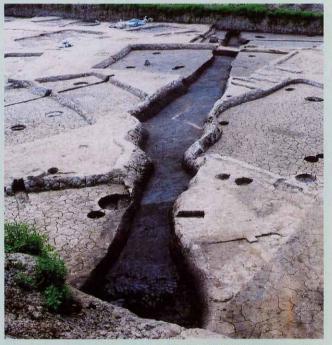
(押切智紀)



1. 近世の墓と溝跡に切られた竪穴住居跡 (火災にあって床に炭化材が散乱している)



2. 人骨がほぼ完全な形で出土した近世墓



竪穴住居跡群を切る中世の溝跡

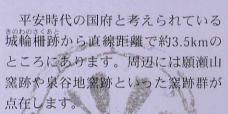


上の溝跡から出土した中国産の青磁片

# 見のかった!

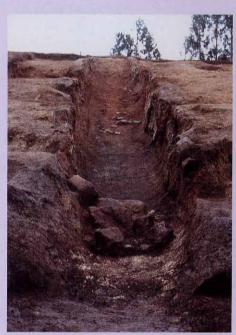


崩れた壁や天井



泉森窯跡では土器の他にたくさんの瓦も出土しました。その中でも、軒先を飾った鑑瓦の模様が城輪柵跡から出土したものと同じ型で作られていることがわかりました。

(伊藤邦弘)



掘り上がった登窯



山の斜面を利用



遺跡遠景



土器や瓦がたくさん出土した様子

#### 国指定史跡

## 米沢市

いち の さか い せき

## 一人坂遺跡

米沢市西部、斜平丘陵の麓に一ノ坂遺跡があります。 現場は、緩やかな坂を少し登ったところにあり閑静な住 宅地の一角に柵を施して保存してあります。平成元年、 宅地造成の前に緊急の発掘調査をしたところ、大型の竪 穴住居跡が発見されました。この住居は、今から約 6.000年前の縄文前期初頭の住居跡で、全長43.5m・長楕 円形の日本において最も長い住居跡です。住居内には、 火を燃やす施設である地床炉を6基有し、柱穴が壁にそ ってほぼ等間隔に並んでいます。遺物は、住居内を中心 に多量に出土しました。特に石器は、石鏃・両尖匕首・ 石匙などを中心に、その製作途中のもの、製作断念のも の、製作失敗のもの、完成品など多量に検出されました。 石器製作のうえで削りだされた剥片や未完成製品など は、床に敷き詰められその上に炭化したクルミを砕いた ものを敷き、さらに微砂質の砂質層で覆い、意図的に埋 められていました。

また、大型竪穴住居跡の発見を契機に、発掘調査は平成6年まで行われ、小規模な竪穴住居跡群や、臼玉と石器を副葬とした土壙墓など一般居住地域も確認されました。その中で「連房式竪穴住居跡」と名づけられた特殊な建物は、全長約50mになる9棟の竪穴住居跡が軒を接して連なって発見されたものでした。これまでの縄文時代の遺跡としては、前例のないものです。出土した土器から大型竪穴住居跡とほぼ同時期のものと考えられ、石器工房で働く人々の住まいがこの連房式竪穴住居跡ではないかと調査担当者は考えています。一ノ坂で製作された石器は東北南部から関東・中部地方にまで広がっていることがわかっています。

この成果により、大型竪穴住居跡は、現状で保存されることとなり、平成8年度に国の史跡に指定されました。 現場に立って、耳を澄ますと石を砕く音が聞こえてくるようでした。

(福澤美幸)

Illustration © Kurosaka Hilomi

#### 「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当 センターまで電話にてお問い合わせ下さい。な お、郵送料はご負担いただきます。

電話 023 (672) 5301 (代表)





大型堅穴住居跡



資料提供:米沢市教育委員会

#### **"**編集後記**"**

夏の猛暑に台風による大雨などが続きましたが、最近はめっきり肌寒くなりストーブが恋しいこの頃です。発掘調査も最終盤をむかえ、今回ご紹介したほかにも貴重な発見が多くありました。12月には調査報告会をビッグウイングにて開催しますので、ぜひご来場ください。(新)